

経営比較分析表（平成30年度決算）

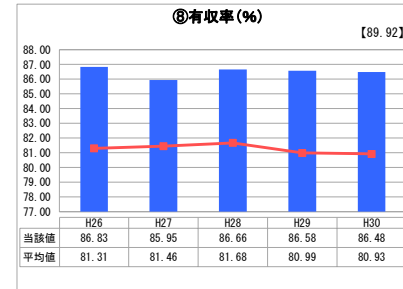
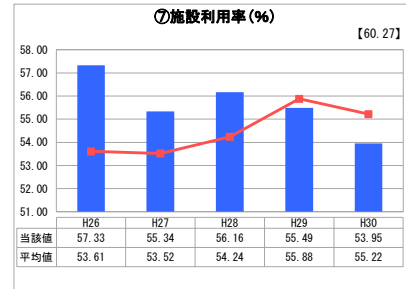
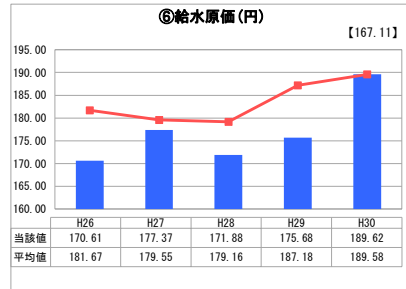
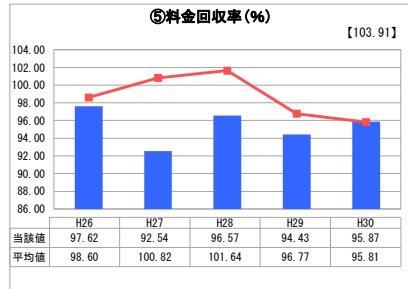
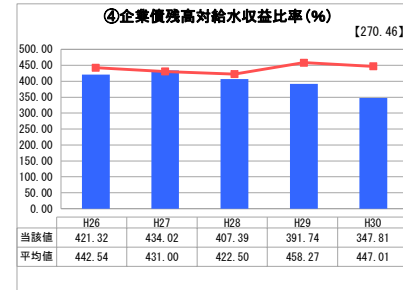
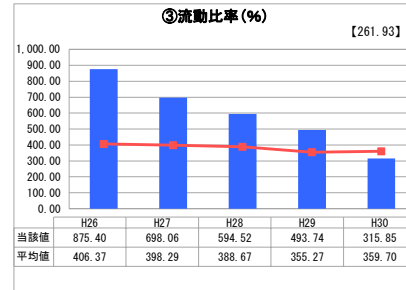
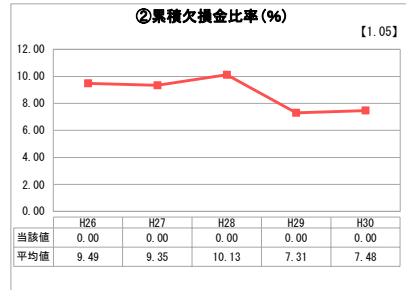
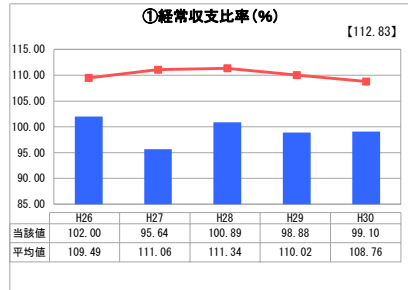
福岡県 鞍手町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	59.53	88.56	2,963	

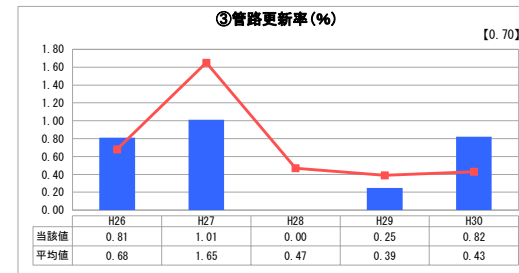
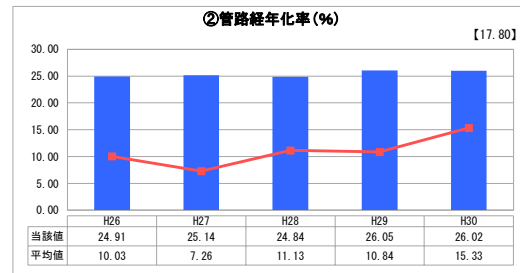
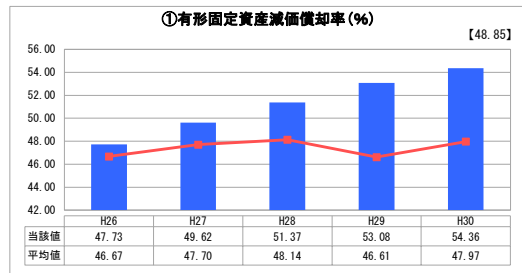
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
16,078	35.60	451.63
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
14,150	34.95	404.86

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①平成30年度より水道料金改定を行ったが、給水量の減少、突発的修繕の発生により100%を下回った。安定した経営を行うためには経費の見直し等の経営改善が必要である。②累積欠損金は、未処分利益剰余金により相殺されているので、これまで発生していない。③平均値より下回っている、今後も浄水場の改良工事を行った起債償還が進むため、数値は下がると思われる。④平成23年に浄水場改良工事に起債を借入したが、その後、新規借入を行っていない。⑤収入が減少しているのに対し、修繕工事等の費用が増加している。⑥給水量の減少及び電気料金、修繕費等増加により給水原価が上昇している。⑦人口減少に伴う配水量の減少しているため、利用率が下がっている。施設の統廃合及びダウンサイジングが必要である。⑧同規模事業者の平均は上回っている。

2. 老朽化の状況について

①管路以外の機械等の中には耐用年数を超えて稼働しているものがあるため、償却資産率が同規模事業者より高くなっている。②同規模事業者と大きく経年化率が高くなっているが、これは開設時に布設した排水管の小口径のビニール管が多く存在している事と思われる。③平成30年度は、同規模事業者より更新率が上回っている。今後も計画的な更新が必要である。現在、口径φ75以上の導水管、配水管の更新を主に行っていたが、今後は浄水場等の施設や小口径の配水管等いかに計画的に更新していくことが課題となる。

全体総括

今後、施設の老朽化が増加していくが、更新に係る費用と経営状況を把握し、健全、効率を維持しつつ計画的に施設の更新を行うことが必要と思われる。